

「かわつら next 800」

～ 秋田県漆器工業協同組合 ～

【開催日】平成30年9月4日

【講師】秋田県漆器工業協同組合 理事長 佐藤 慶太氏

【プロフィール】

株式会社佐藤商事代表取締役。2017年5月より秋田県漆器工業協同組合の理事長に就任（11代）。常に使う人の立場に立った製品の提供がモットー。産地の未来を考え、組合として川連漆器のPRや後継者の育成事業にあたっている。

海外での販路開拓にも意欲的で、2018年9月には初めてロンドンで販路開拓プロジェクトを、また、11月にはパリの展示会にも出展予定。



秋田県漆器工業協同組合  
理事長 佐藤 慶太氏

■ この先100年、そして800年先のために 「川連漆器産地復興ビジョン～かわつらnext800～」

800年の歴史を持ち、**国の伝統的工芸品**にも指定されている川連漆器。川連地区の半径2キロ以内には、木地師、塗師、蒔絵師、沈金師など漆器に携わる職人や業者が200戸以上あり、一大産地を形成しています。

しかし、近年の生活様式等の変化に伴い、川連漆器の生産額はこの15年間で約25%減少し、さらに従事者数は約59%も減少しました。

昨年、秋田県漆器工業協同組合理事長に就任した佐藤理事長は、この現実に愕然とします。

「この成り行きに任せていては、川連漆器は衰退の一途を辿ることになりかねない」。今こそ、産地全体で川連漆器の将来を真剣に考えていきたいと、5年後、10年後を見据えた中長期ビジョン「川連漆器産地復興ビジョン～かわつらnext800～」を掲げるに至りました。



■ まずは、「川連漆器を知る」。

川連塗りは、原木の「木取り」からこだわります。

「横木取り」といって、例えば大きな菓子鉢などは外周部から、また、小さな器は中心部からと、原木から無駄なく木取りし、歩留まりに大変優れています。

さらに『切り出した後も生き続ける』という木の特性をふまえ、燻煙しながらゆっくりと乾燥させることで、狂いや歪みが出るのを防いでいます。

こうして木地づくりに約1ヶ月をかけ、さらにその後の塗りや、加飾（沈金、蒔絵）など、いくつもの工程を経て仕上がる川連漆器。こうした職人の手作業が、「川連漆器」ならではの**高いクオリティ**を保ってきたのです。

お値段が高い理由は、まさにここに 있습니다。



製品後の狂いが生じないよう、十分な乾燥時間を経て仕上げていく。



## ■ 「つくり手ファースト」に込められたメッセージ

伝統的工芸品の指定要件は大変厳しく、伝統的技術や技法が100年以上の歴史を有すること、原材料や基本的な技術・技法が今日まで継続していることなど、一定の基準をクリアする必要があります。

何かとやっかいな**伝産法**（※伝統的工芸品産業の振興に関する法律）ですが、その趣旨は「職人を守ることにある」と言います。

何段階もの工程を職人が分業しているのも、当川連地区の特徴。つまり、どの段階が欠けても産地は成り立たないこととなります。

「川連漆器産地復興ビジョン～かわつらnext800～」が目指すもの。それは、**文字通り、つくり手第一主義**。つくり手を守ることは、すなわち、漆器業に携わる一人ひとりの**幸福の追求**へとつながっていくことなのです。



産地を守るため、2年前から漆の植栽にも取り組んでいます。

## ■ 未来に伝えていきたい、本物の良さ



蒔絵体験にも挑戦しました

一般消費者は、ともすると樹脂やウレタンなどを使用した、価格が安い漆器製品について手が伸びてしまいがち。売上の伸び悩みは、職人の収入にも直結します。こうした現状を打破するため、組織を挙げた、販売力・営業力の強化は急務。佐藤理事長が海外展開に力を入れるのも、ここに理由があります。

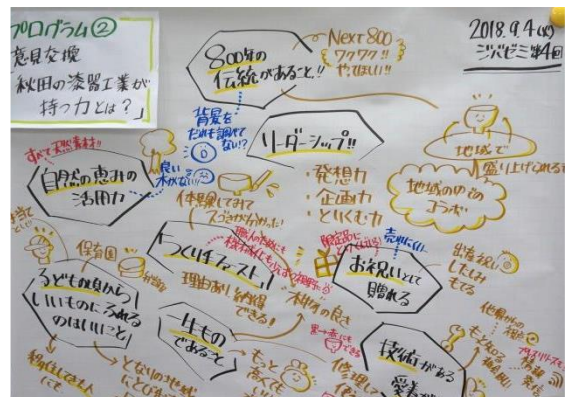
近年の海外の和食ブームに目を付け、ロンドンの三つ星レストランで、実際にテーブルウェアとしての使い心地を体感してもらう『テストマーケティング』にも取り組みはじめました。

「小中学校の給食の器に川連漆器を使うことによって、柔らかな口当たりや、漆がもつ抗菌作用など、素晴らしい機能があることを、子どもたちや若いお母さんたちなど、いろんな世代に広く知ってほしい」と意欲的に語る佐藤理事長。漆の植栽をはじめとして、職人の後継者育成にも力を入れています。

いま、まさにこの先800年先を見据え、着実な一步を踏み出しています。

## ■ 参加者の感想

- ・実際に蒔絵を体験し、技術の高さや製品としての価値を、改めて知ることが出来た。
- ・器のひとつひとつに職人の高い技術が凝縮されている。**高い価格に納得できるし、もっと価値に見合ったプライスでもよいと感じた。**
- ・若きリーダー佐藤理事長のリーダーシップが素晴らしい。新たな取組には膨大なエネルギーを要するが、その**強い信念と「つくり手ファースト」にたどりついたプロセス**を皆が共有しているからこそ、支持されているのだと感じた。
- ・修理もできる**川連漆器は、まさに一生もの**。川連漆器の良さを知るきっかけをもっともっと増やしていけば、地域全体の盛り上げに結びつくのではないかと。
- ・湯沢にある、**地域内のブランド（酒造、稲庭うどん）とコラボ**すれば、いろんな相乗効果が生まれそう。



川連漆器が持つ力とは、何か。参加者全員で意見交換しました。

秋田県漆器工業協同組合 様、そして参加してくださいました皆さま、ご協力いただきまして、本当にありがとうございました